

春日中学校「こどもが描く学校図書館づくり支援事業」に係る情報発信

1月

① 納入物品の配置

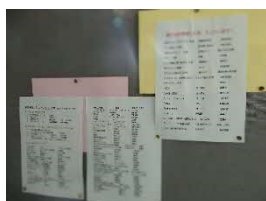
敷物やソファなど、いくつかの物品が入ってきた。《ビフォー・アフター》の効果をねらって、すべての物品が揃ってから図書館に配置するつもりだったが、生徒総会(1.21)で図書委員長が、「入ってきた物品について、少しでも見てもらって全校生に変化を感じてほしい」と答弁をしたことから、図書室に入れた品物は、一部ではあってもすべて周知するようにした。

② 学年ごとの《読書コーナー》の設置

管理・運営は、学年の図書担当教師に依頼し、生徒の意見も取り入れつつ、効果的な使用をしてもらえるよう打ち合わせた。



③ 新着本についての紹介



生徒が希望した本がどの程度入ったのか、また、どのような本が希望されていたのかといった情報を、図書室や校内の廊下に掲示して公開した。生徒総会でも、今年は本支援事業によって例年の倍の予算が付いた結果、500冊近い図書が入ってきていることを報告した。

2月

市内中学校図書館教育担当者会(2.27)



市内の中学校図書館教育担当者に対して本事業の意図や概要、進め方などについて報告した。来年度以降の各校の取組に生かせるよう、苦労したことや工夫点などについて、資料に基づいて詳しく伝達し、質疑応答の時間を持った。図書館はもちろん、第2図書館にする予定の部屋(メディア・ルーム)や学級文庫、また、廊下の状況(読書コーナー)などについても公開した。



3月

① 図書委員会(3.5)

ヨギボーなどの物品を図書室に置くことに対し、生徒全員で上手な使用をしていこうと呼びかけることにした。図書室改造の全体イメージとその目的、目的達成のための使用マナー等について、各クラスで話すことになった。



② 《多読賞》の表彰(3.10)



学年集会において、図書委員長から表彰を行った。丹波市の取組とのタイアップであることをアナウンスし、さらに『読書通帳』活用の機会についても広げていこうと、再啓発した。この取組は、10月の《読書週間》を意識してスタートしたものだったが、毎月23日の《家庭読書の日》のことも含み、本を読む意識を高めていけるようにと考えていたものである。



③ 学校作業(3.9 と 3.23 の予定)



愛校作業の機会に、物品や図書の移動を生徒作業によって行った。さらに、この作業を仕上げるために、地域ボランティアにも参加していただいた。

地域ボランティアには、春季休業直前にも来校していただき、メディア・ルームの整備やメイン

となる図書館の配架作業もお世話になって、整ったものにしていただく予定になっている。



④ 物品の納品(3.10)

大型本棚やパーテーション付きの机、また、大型のリラックスチェアなどが入ってきた。また、スチール本棚も3つ入ってきたので、メディア・ルームに設置した。今、仮置きの状態ではあるが、調べ学習に入ってきた1年生が室内の様子の変化を実感して歓声をあげていた。卒業していく3年生にも現状を報告したところ、「行ってみよ!」と、強く興味を持ってきていた。

どんな図書館になるのか、生徒の期待が高まっている。

